

小学校「特別の教科 道徳」使用教科書の採択に関わる
選定の観点について

- 1 道徳科の目標を達成するために、児童の発達段階に即し、学習のねらい（目標）や振り返り活動等が適切に設定されるなど、児童の道徳的な成長を促し、実感できるよう工夫・配慮されていること。
- 2 言語活動や問題解決的な学習、道徳的行為に関する体験的な学習など、児童が主体的・対話的に道徳的価値について、多面的・多角的に学べるよう多様な指導方法が工夫され、「考え・議論する道徳」の学習活動が進められるよう工夫・配慮されていること。
- 3 内容項目が網羅的に取り扱われており、教材の系統性・発展性が工夫されていること。また、他教科、外国語活動、総合的な学習の時間、特別活動とともに、環境教育、情報教育、生き方探究（キャリア）教育等の教育課題との関連に加え、他校種との接続や家庭・地域との連携について工夫・配慮されていること。
- 4 教材に応じて、読み物資料に加え、多様で適切な挿絵や写真等が豊富に用いられるとともに、特定の見方や考え方に偏ることなく、多様な見方や考え方ができるよう工夫・配慮されていること。
- 5 生命の尊厳、自然、伝統と文化、先人の伝記、スポーツ、情報化への対応等の現代的な課題などを題材とし、児童が問題意識をもって多面的・多角的に考えたり、感動を覚えたりするよう工夫・配慮されていること。
- 6 基本的人権の尊重の視点からの内容が積極的に取り上げられ、悩みや葛藤等の心の揺れ、人間関係の理解等の課題も含め、児童が深く考えることができ、人間としてよりよく生きる喜びや勇気を与えられるよう工夫・配慮されていること。
- 7 表記や表現について、文章や挿絵、写真等が適切かつ正確で使いやすいことに加え、ユニバーサルデザインの観点から文字の大きさ、見えやすい色の使用及び紙面の構成等について配慮がなされており、造本についても装丁や編集が適切なものであること。また、再生紙の使用や環境に優しいインクの使用等環境への配慮がなされていること。